



つづく つながる 夢を育てる学び舎
国立二小だより

令和7年(2025年)10月31日

国立市立国立第二小学校

校長 内田 辰彦

つながる思い

副校長 後藤 茂敦

今年の夏も猛暑になり、9月は暑さ指数を気にしながらの屋外活動でした。10月に入ったあたりから少しずつ過ごしやすいく気候になり、運動会の練習もそれほど暑さを気にせず実施できました。そして、来週11月7日は暦の上では「立冬」。早くも冬到来です。もう少し過ごしやすいく秋を感じていたいと願うばかりです。

今年の運動会は、10月18日(土)好天の中、実施することができました。昨年度のような真夏日にはなりませんでした。暑い日差しを感じながらの運動会でした。当日までの練習も天気に悩まされることはほとんどなく、少しずつ練習を通して成長する子どもたちの姿を職員室の窓や校庭から見ていました。そんな練習の中の一コマをお伝えします。

6年生は、小学校生活最後の運動会です。6年表現は、今年度も伝統の二松ソーラン。テーマは、「来輝晴鳥(らいきせいちょう)」です。「来輝晴鳥」を四字熟語で検索しても出てきません。これは、



6年生全員からアンケートを取り、その中の言葉から実行委員が考えた造語です。意味は、「未来に向かって輝きを放ち、羽ばたく鳥のように、見ている人の心が晴れるようなソーランを踊ろう」という思いが込められています。そんな中、運動会前日の二松ソーラン練習の前に、担任の一人から子どもたちへメッセージがありました。

「みんなは、自分が6年生の時の代に元気なところがよく似ている。自分の時も二松ソーランは期待されていた。でも、その当時、大きな声を出すのは格好悪いという学年の雰囲気があり、自分は本番で声を出し切れなかった。その時は何も思わなかったけれど、卒業して1つ下の学年が全力で大きな声を出して演技をしている姿を見た時、うらやましくて悔しい思いでいっぱいになった。きみたちは、人を感動させる力をもっている。悔いが残らないように全力で演技してほしい。」

当日の6年生の演技を見て、メッセージは子どもたちに伝わったと確信しました。何年もの時を経て、当時の思いが繋がった瞬間のように感じます。

運動会当日は、たくさんの保護者・地域の皆様に見守られながら、子どもたちは伸び伸びと演技をすることができました。始めの頃はうまくいかなかった人も、日を追うごとにうまくなっていました。



来る11月22日(土)は、舞台を校庭から体育館に移し学芸会を開催します。子どもたちのどんな成長が見られるか、楽しみにしててください。